



Käthe Kollwitz
Die Mütter aus Ploetz Warzig

津田塾大学創立125周年記念事業

ケーテ コルヴィッツ展

—— 平和の轍^{わだち}を繋げる

会期：2025.10.1^水 WED. → 12.18^木 THU.

閉館日：土・日曜日（但し10/12（日）・18（土）・19（日）は開館します）

開館時間：9:00 - 16:30 ※入館は16:00まで
※土・日曜日の開館時間は10:00～16:30

津田塾大学 | 小平キャンパス 〒187-8577 東京都小平市津田町 2-1-1
TSUDA UNIVERSITY | 津田梅子記念交流館 山根記念ギャラリー

交通
アクセス



※ご来訪の際は公共交通機関をご利用ください。

西武国分寺線「鷹の台」駅より徒歩約8分 / JR武蔵野線「新小平」駅より徒歩約18分 /
JR中央線「国分寺」駅北口より西武バス約12分「津田塾大学」下車すぐ（武蔵野美術大学行）

入場：無料
主催：津田塾大学
記念事業委員会
協力：フィリア美術館
（山梨県北杜市小淵沢町）

お問合せ

津田塾大学 経営企画課
TEL: 042-342-1663
E-mail: senryaku@tsuda.ac.jp
Web: <https://www.tsuda.ac.jp/>



125th Anniversary 1900-2025
2025年、津田塾大学は
創立125周年を迎えました

ケーテ ^{わだち} コルヴィッツ展

—— 平和の轍を繋げる

2025.10.1 WED. → 12.18 THU.

ケーテ・コルヴィッツ Käthe Kollwitz

1867年プロイセン生れ。早くから芸術家を志し、エッチング、版画、彫刻、造形などで若くして才能を開花させた。1891年に医師のカール・コルヴィッツと結婚。1902年からの「農民戦争」シリーズの版画や、1919年に暗殺された革命的社会主義者カール・リープクネヒトを追悼する作品など、世界の激動の渦中で思想的・社会的なテーマに果敢に取り組んだ。一貫して、社会の底辺で貧困に苦しむ市井の人々の姿を描きつつ、餓えのなかで必死で食べ物を求める子どもたちの表情とともに、母親の腕のなかに安らぐ子どもや日常の小さな喜びの感情をも描き出している。日本のいわさきちひろも、女性芸術家としての生き方やテーマに共感し、自身のアトリエにケーテの画集を置いていたという。

1934年から翌年にかけては、時代の暗雲を思わせるような「死」のリトグラフシリーズが発表されるが、その頃からナチズムによって「退廃芸術」として展示が禁じられ、アトリエもはく奪される。二度と作品を創作すること叶わず、1945年に終戦を待たず世を去った。

彼女の看病を続けていた孫娘に、ケーテは「博愛主義は反戦運動を超える新しい理想です。人類をみな同胞だと認め合う思想なのです」(日記『私の人生から一心の遺書』)という言葉を残したという。

ベルリンの国立中央追悼記念館(ノイエ・ヴァッフェ)に置かれたブロンズ像「死んだ息子を抱く母親(ピエタ)」(1937-8)はケーテの代表作の一つだが、第一次世界大戦で戦死した自身の息子への母親の思いが凝縮されて魂を揺さぶられる。若くして命を奪われた幾多の命への深い悲しみと鎮魂への祈り、戦争への静かな怒りが一人の女性芸術家の手によって戦争の世紀の記念碑となって遺されたことは意義深い。「命をみつめて」と題する作品展を本学で行った山内若菜が今回の展示に特別に取り組んだオマージュ作品は、この「ピエタ」の模写から発想を得たものである。(写真:最下段)

戦後80年の2025年、依然として混迷をきわめる世界の中で、小淵沢のフィリア美術館の協力により展示が叶ったケーテ・コルヴィッツの作品から平和の轍を繋げる。



ケーテ・コルヴィッツ「額に手をおいた自画像」
エッチング(1910)



ケーテ・コルヴィッツ「食べ物を与える母親」
エッチング(1932)



ケーテ・コルヴィッツ「死んだ息子を抱く母親(ピエタ)」

撮影:早川敦子(本学学芸学部 英語英文学科 教授)

※ 本作品の展示はありません



山内若菜「仔馬を抱く娘」(2025)

イベント情報

ギャラリートーク Gallery Talk

2025.10.19 ^日 SUN. 13:00-14:30

津田塾大学小平キャンパス 津田梅子記念交流館 岡島記念チャペル

登壇者 小池 昌代氏 (詩人/作家) × 山内 若菜氏 (画家)

山内氏のケーテ・コルヴィッツへのオマージュ作品も同時展示いたします。